

# 喜多原だより

NO 70

平成30年4月



## 喜多原学園の理念と支援方針

喜多原学園 園長 田中 浩之

昨年度、青少年・家庭課、児童相談所、喜多原学園による「喜多原学園のあり方検討会」が、三回にわたり開催されました。その検討会における協議で、学園の理念と支援方針を策定しましたので、ご紹介します。

### 【理念】

子どもが自立し、社会と調和して生活することを支援する。

児童福祉法には、児童自立支援施設の目的として、子どもが自立することを支援することが明記されています。

「子どもの自立」が学園の使命なのです。子どもが自立するためには、子どもの心の中に「自信」や「自尊心」を育んでいく必要があります。私たちは、この「自信」や「自尊心」をどうやって子どもの心の中に育んでいくかを常に念頭において、子どもを支援していくことを考えていかなければなりません。

次に、子どもたちの入所理由のほとんどは、学校や家庭、施設での不適応ですが、学校や家庭、施設は、小さな社会単位とも言えますので、そこでうまく生活できないと、社会と調和して生活することが困難になります。したがって、「社会と調和して生活すること」は、自立の一要因ですが、自立し

ていく力の中でも、特に育んでいかなければならない力として理念の中に列記しました。

社会と調和して生活するためには、社会に対して「安心感」や「帰属意識」「貢献感」を得ることが重要な条件になります。

### 【支援方針】

① 安定した生活と、子どもの自主性を大切にします。

② 個別支援と集団支援のバランスを大切にします。

③ 学園が有する環境を大切にします。子どもの心に自信や自尊心を育むために、子どもに安定した生活を提供する必要があります。そのためには、職員が一人ひとりの子どもを受容し、真摯に向き合い、理解し、関係を深めることを心がけることが大切になります。職員と子どもとの関係性だけではなく、常に子ども同士の関係性、職員同士の関係性を考え、それを深めていくことで、初めて子どもの生活の安定性を確保した支援が可能となります。

また、子どもの自主性を大切にして、学園生活において発生する約束事は、出来るだけ少なくするように心がけなければなりません。やむを得ず、約束事を設ける場合も押し付けや管理の

ためではなく、子どもが気持ちよく生活するために必要なルールという認識を職員も子どもも持つことが必要です。

子どもの社会性を培うための支援のあり方として、個別に支援する方法ももちろん重要ですが、従来から言われてきた集団として支援する方法（グループワーク）も重視すべきです。

個別に支援する方法と集団として支援する方法は、車の両輪のようなもので、どちらに偏重しても支援はうまく行きません。個別支援によって、子どもの自信や自尊感情を育み、子どもが持つ自立する力を引き出します。それと共に、良い影響を与えられる集団作りを行い、その集団に子どもが安心感や帰属意識を持つて過ごせる居場所となるよう支援することが大切なのです。

集団が持つ影響力も活用しながら、子どもが生活の中で他者を尊重し、集団に貢献する気持ち、問題を解決する力などの社会的スキルを学び、社会と調和して生活することが出来る土台を身につける支援を行います。

喜多原学園には、豊かで美しい自然環境がありますが、この自然環境も含めて、学園の物的環境（寮舎、校舎、グラウンド、体育館など）や人的環境（職

員、子ども、家族、関係機関など）を大切にし、職員が率先し、子どもと共にこれらの環境の整備や調整に心がけます。そうすることで、学園全体に一体感が醸成され、園内が愛情と理解のある雰囲気満たされます。

結果的に、学園の環境は、子どもの健全な育みの場として、理想的な空間となります。子どもは、そこで生活することによって、自然と自信や自尊感情が生まれ、社会に対しての安心感や帰属意識、貢献感を得ることとなります。

今後の喜多原学園の運営は、以上の理念と支援方針を基に行っていくたいと思しますので、どうかよろしくお願いたします。



## スポーツ活動

### 中国地区野球大会

野球部監督 堀江健太郎

今年度は例年より遅い、五月半ばの野球部結団式となりました。本番まで二か月しかありません。野球素人の私が監督となり、いずみ分校、女子寮職員などの野球経験者の力を大いに借りて練習を開始しました。ほとんど「野球」を教えられない私は「どんまい」「ナイス!」の声かけのチームワーク、挨拶、守備の交代時には走る、道具を投げないなどのマナーを大切にする心を掛けました。

野球が嫌いでたまに練習への参加を拒否する子、うまくいかないと投げやりになる子、いくら練習してもなかなかうまくならない子、そんな子に厳しい言葉をかけてしまう子もありました。野球が大好きなキャプテンも、そんなチームに気持ち折れそうになる時もありました。

そんな日々をみんなで乗り越え、七月一二日から一四日にかけて開催された中国少年野球大会には、全員が「勝ちたい」と気持ちを一つにして臨みました。中国地方各県の児童自立支援施設のチームとリーグ戦を行い、最

終的な結果は三敗一分けで、みんなが熱望した「二勝!」は得られませんでした。優勝した岡山県立成徳学校とは二対三の大接戦でした。

子どもたちは全試合大きな声を出し、一生懸命走り、投げ、バットを振った三日間でした。子どもたちを上手にリードしてやれなかった監督の未熟さを心中詫びながらも、全力で闘いぬいて清々しい顔をした彼らを誇りに思いました。

男子児童作文

七月に野球大会がありました。僕は、中学一年でしたが、ピッチャー、キャッチャー、サード、ショートと沢山のポジションをしました。その中でも一番大変だったのは、ピッチャーで、プレッシャーに負けそうになることもありました。チームメイトが励ましの声掛けをしてくれて、くじけずに投げることが出来ました。

育成学校と試合した時は、自分が思っていたより、沢山抑えられて、その時の快感は今でも忘れられません。

四試合して一度も勝てませんでしたが、強豪チームと二対三と良い試合が出来て嬉しかったです。皆と力を合わせられたからこそ、良い試合が出来



たのだと思います。仲間の大切さを分  
からせてくれる大会となりました。

諦めない・ボールを繋ぐうちのバレー

女子バレー部監督 青島茂雄

四月末から十月中旬の中国バレー  
大会に向けて、確実にサーブを入れる  
ことだけを目標に子ども達と寮職員、  
分校の先生方、更に、男子寮児童にも  
練習相手になつてもらい学園全体で  
バレー練習に取り組みました。成徳学  
校やわかたけ学園への遠征、米子児童  
相談所が主催の神戸わかば学園及び  
地元の中学校との交流試合参加など、  
沢山の試合経験をさせていた、だいた  
ことに関係者のみなさまに感謝の気  
持ちとお礼を申し上げます。

大会直前までは子どもが六名揃い  
正式参加予定でしたが、大会本番では  
残念ながら子ども四名、職員二名での  
オープン参加となりました。

大会当日、初戦のわかたけ学園戦は  
フルセットで勝利。次の育成学校戦は  
ストレートで敗退しました。二日目は、  
絶対に勝ちたいと目標にしていた成  
徳学校戦がありました。成徳学校の選  
手の気合いとナイスプレーに圧倒さ  
れ連続ポイントをゆるし、職員二名は  
初日での負傷、試合でのミスが続き諦  
めモードが漂っていました。また、タ  
ムアウトを連発して、檄を飛ばすも  
効果はなく、流れは切れません。

しかし、子ども達は違いました。「諦  
めないで、大丈夫。ボールをつなごう。  
うちのバレーをしよう。」とコートに  
声が響かせ、ひたすらボールを拾い続  
けました。そして、大接戦の末、成徳  
学校から勝利することができ、歓喜の  
涙を流す選手達の姿がそこにありま  
した。最終日には、広島学園にも勝利  
することができました。

子ども達は何度も心が折れそうに  
なりながらも、自分に打ち勝ち、ボー  
ルを繋ぎ、チームで勝ち取った銀メダ  
ル（オープン参加の部）が、最高の経  
験と思い出として心に刻み込まれま  
した。

大会後、我ら喜多原学園バレー部は  
「次こそ正式参加・優勝」を目標にス  
タートを切っています。

女子児童作文

私は、五月に入所しました。始めは、  
不安で今にも抜けだしたかったです。  
でも、喜多原の人達はこんな私を明る  
く出迎えてくれました。その時は、と  
ても嬉しかったです。そして、これか  
ら頑張ろうと私は思いました。

初めは何も上手くいかなくて投げ  
出した事もありました。また、一緒に  
いるメンバーとぶつかった事もあり

ました。そんなことも今では、良い思  
い出です。

喜多原学園での一番の思い出は、  
「バレー大会」です。

みんなと繋いで、助け合つて、改め  
て仲間の大切さというものを感じま  
した。

途中からですが、私はキャプテンを  
任されました。その時は、みんなを引  
つ張つていけるか、キャプテンとして  
みんなをまとめられるか不安でした。

最初は、バレー練習が始まつても、  
運動が苦手な子や、バレー初心者な子  
もいてまづどこから始めていいか分  
からなかったです。でも、職員さん達  
や周りの人達からの色々なアドバイ  
スなどで、私はチームをまとめる事が  
出来ました。

大会が近くなるとみんなピリピリ  
していて、正直練習する雰囲気ではな  
かったです。何度も、「もう無理だ」、  
「ホントにこのメンバーでやってい  
けるか」など不安になりました。でも、  
みんなで何度も話し合つて最高のチ  
ームになりました。その時、私は心の  
中で喜んでいました。

今年のバレー部の目標は、「優勝す  
る！」が目標ではなくて、  
「みんなで最後まで繋ぐ」が目標でし  
た。

最大の目標は「優勝」かもしれないけど、私は何か違うなと思っていました。たとえば優勝出来なくても、「みんな最後まで繋いでやる！」が私の中のバレーボールでした。その目標を言った時、みんなが拍手してくれたこと今でも私は覚えています。その時の、みんなの表情はとても良かったです。バレー大会当日、私たちは今までにないぐらいの実績を残したと思います。メンバーは四人しかいなくてオーブン参加になりましたが、四勝一敗という結果でした。「一番勝ちたかった成徳にはストリート勝ちでした。その時は、みんなまだ試合が残っているのに涙を浮かべていました。私は、その瞬間「あ、このメンバーで試合に出られてよかった、勝って良かった。」と改めて思いました。

最終的に優勝は出来なかったけど、私たちが目標とする繋ぐバレーは出来たと思います。でもやっぱり優勝しなかったです。だから、来年こそは優勝してほしいです。喜多原の人達、だったら絶対出来ると思います。私は信じています。私はここで経験したことをいかして、この先くじけそうな事も頑張っていきたいと思えます。喜多原に来たこと本当に良かったです。ありがとうございました。



### 中国地区児童駅伝・マラソン大会

↳ 駅伝部監督 遠藤 翔吾

一月二日に山口県で行われた第七回中国地区児童駅伝・マラソン大会に男子児童四名が参加しました。今年には参加人数が四名と少なかったため、全児童がマラソンの部に出場することとなりました。他県に比べ少人数での参加ではありましたが、遠路遙々応援に来て下さった保護者さんのお力添えもあり、喜多原チームも雰囲気良く大会に臨むことができました。

今大会はクロスカントリイで使用されているコースということもあり、アップダウンの激しさに児童らが苦戦することも予想されましたが、その予想を見事に裏切り全員が自己ベストを更新する走りを見せてくれました。中学生の部で優勝したT君は、ゴール直後職員を見つめるなり「○○さん！ やったー！」と叫びながら職員に飛びついており、まるでドラマのワンシーンを再現しているかのようでした。その他の児童らもゴール後とても良い表情をしており、走ることが好きな児童も、そうでない児童も、達成感や安堵感、爽快感など様々な感情を味わっていました。大会の帰りに寄った温泉は、さぞかし気持ちよかったです。

私は、駅伝・マラソン大会のマラソンの部に参加しました。最初はドキドキとワクワクがいつぱいで緊張していましたが、監督の遠藤さんに励ましの言葉をもらって緊張がほぐれました。でも、やっぱり本番が近づくと緊張しました。スタート位置につき、ピストルの音とともにみんながスタートしました。一位の選手を追いかけ、最後に抜かせばいいと思っていました。でも、予想よりペースが遅くて一位のまま独走してゴールしました。二位との差は二十八秒くらいあって、思ったより余裕でした。

と思います。応援していただいた皆様本当にありがとうございました。

↳ 男子児童作文

私は、駅伝・マラソン大会のマラソンの部に参加しました。最初はドキドキとワクワクがいつぱいで緊張していましたが、監督の遠藤さんに励ましの言葉をもらって緊張がほぐれました。でも、やっぱり本番が近づくと緊張しました。スタート位置につき、ピストルの音とともにみんながスタートしました。一位の選手を追いかけ、最後に抜かせばいいと思っていました。でも、予想よりペースが遅くて一位のまま独走してゴールしました。二位との差は二十八秒くらいあって、思ったより余裕でした。

私は、あまり練習しなかった時期もありましたが、大会が近づくにつれ、練習でしっかり走るようになりました。練習を重ねるごとにタイムが縮まり、去年の速い先輩たちのタイムに近づいてきました。そして自信がついてきました。今も、たまに走るので、これから続けたいです。大会では、お母さんに良いところを見せられて良かったです。



## 園遊会

女子寮 副寮長 尾澤理子

各関係者のみなさまにご協力をいただき、今年も盛大に開催することができました。本当にありがとうございます。

女子寮は、普段の生活で頑張っていることを披露したいと考え、毎朝取り組んでいる朝食作りの技術を活かし、味噌汁を作らせていただきました。

また、普段の活動が作業中心である研修課は、自分達の活動を知ってもらいたいと考え、普段の取り組みを替え歌に乗せて披露させていただきました。

園遊会を通して、児童の日々の生活における頑張り伝えていけるように、今後も運営をしていきたいと考えます。今後とも、変わらぬご支援をいただきますよう、よろしく申し上げます。

男子寮 足立 渉

二十九年度は、七夕園遊会、秋の園遊会と二回の園遊会を開催しました。七夕園遊会では、例年以上のお客様をお迎えし、児童、職員運営の店舗ではお客様をお待たせする事態もありま



したが、児童にとつては、それも一つの経験となりました。秋の園遊会では、七夕園遊会での反省を踏まえ、お客様の動態を見直し、混雑は解消されました。非日常の園遊会という場だからこその経験は達成感だけではなく、こういった緊急事態への対応、来て頂くお客様への配慮という点でも児童の力が養われるのだと考えております。今年も児童の成長の機会であります園遊会へのご来園、ご協力、よろしくお願いたします。

## 学園での思い出

女子児童作文

私は喜多原に来て自分の心が強く変わりました。

私は人間関係が凄く苦手で寮生活上手くできるか、という不安はたくさんありました。しかし、皆が優しく受け入れてくれて毎日楽しく過ごすことができました。

寮行事で皆と色々な所に行ったり、職員さんとLSTに行つて時間のことやお金の使い方の勉強もできました。家から離れて過ごして、寂しいし、辛いこともあったけど、離れて気付くことや、離れてお互い変わることに気づけてよかったです。

集団生活では、イライラしたり気持ちが沈んだりした時、自分なりの対処法で、部屋に入るとか好きな音楽を聴いて落ち着いたり、自分で考える力もつき、いいなと思いました。

私にとつて大山登山、バレー大会、スキーは本当に良い経験ができたと思います。どれも初めての経験で、やり遂げた時、嬉しかったです。良い経験でした。

喜多原に来て前より性格も明るくなり、自分を出せるようになりました。皆が応援してくれていると気付いて、

自分なりに頑張ろうと思えました。なにより、色々な人に出会えてよかったです。そして、このメンバーで充実した一年を過ごすことができました。喜多原での生活を思い出しながら、これから頑張りたいと思います。

### 女子児童作文

私は喜多原学園に来て、少しは、成長したと思います。

喜多原学園に来る前は、自分のことがひとつも言えず、一人で抱え込んでいました。

しかし、喜多原に来たことで、職員や分校の先生、家族からの愛情を直に受け取り、私は愛されていると気づくことができました。そして、自分のキヤラがなかなか見つからず、暗くなつてみたり、明るくなつてみたり、波があつたはずなのに、みんなは、「そのままでもいいんだよ」と言ってくれました。そのおかげで、一番楽な自分に出会えました。

喜多原にいるみんなとの会話で、自分の沢山の長所に気づいたり、みんなから必要にされたりすることで、自分の価値を見出すことができました。

そのため、自分を愛することが少しずつ出来るようになり、人のことも素

直に愛することができるようになりました。また、喜多原学園に入所したことで、将来の夢も見つけることができ、将来への希望がもてました。

ありのままの私を、職員をはじめ、女子寮のみんなが受け入れてくれたことで、目標があつた、素敵な女性になれたような気がします。

喜多原学園にきて、よかつたと心から思います。

喜多原学園のみなさん、ほんとうにありがとうございます。



## 平成二十九年着任職員

### 男子寮長 堀江健太郎

私はこの四月に喜多原学園男子寮長に着任しました。この一年間を振り返り、大事なな、と思つていふことを二つ書きます。

一つ目は、ここで子どもたちと関わる姿勢に関してです。子どもたちは元の地域での人々との関わりの中で「自分は悪い子だ」「人は信頼できない」という信念を強めてしまつています。

そんな子どもたちが学園職員、分校の先生方と生活をともにし、種々の体験を重ねることで「自分は大丈夫だ」「人は信頼できる」との方向へ信念を育むことによつて、地域に帰つてからも自分に自信を持ち、周りの人々と調和して暮らしていけるよう支援することが何よりの基本であると思つています。注意すること、叱ること、行動を制限することも時に必要ですが、この当たり前のような基本を忘れず、常に中心に持ち続けていきたいです。

二つ目は、自分自身の在り方についてです。全国児童自立支援施設協議会の掲げる理念は「共生共育（ともに生活し、ともに育む）」です。この理念は、なにも一般の生活とかけ離れた特別なものを意味するのではなく、子ど

もも、支援する大人も「不完全な存在」であることを勇気をもって受け入れながら、子どもの前に立つ大人自身が「一人前の成熟した大人であること」を志しつつ、目の前の一人一人の子どもたち、保護者、学園や関係機関の人たちと「ともに育つ仲間」として繋が

り続けていく、ということなのだと思ひます。私自身がここで育ち、一人前の大人として成熟していきたいです。

### 指導課係長 青島茂雄

昨年四月に着任し女子寮長という大役を任命され早一年が過ぎました。四月当初の二週間程度、過去にない女子児童ゼロの状態でのスタートを切りました。思い返すとこの期間で、徹底した寮内外の環境整備、職員間で支援方針についての意思疎通が図れた準備期でした。

私の理想の寮運営は、細かなルールを撤廃し、管理的にならず家庭的な雰囲気を作り、子ども達にとつて第二の家でありたい。職員は、「フィールドワーク（常に子どもと共に!）」を第一に「観て（観察）・考えて（考える）」を創りだす（自分の支援スタンスを）ことを目指してきました。

日々の生活では、子ども達は毎日、色々なサインを出してくれます。表情が悪かったり、おかしなテンションになったり、職員に反発してみたり、自傷行為や無断外出、それ以上のことも・・・。全ては生活がしんどいんです。入所の理由は色々あるとして小中学、高校生年齢で家庭を離れ、見ず知らずの子どもと、職員と寝食を共にする集団生活がいかにしんどいか。我が家に勝るものではありません。

我々、職員は、子ども達の生活のしんどさを受け止めながら、保護者様、措置元児童相談所、原籍校、地域の支援者の方々のご理解とご協力のもと、喜多原学園が安心して生活できる場所であり、子ども達にとって第二の我が家と思えるように、引き続き生活の質を高めていきたいと思えます。

### く児童生活支援員 足立 渉

二〇一七年四月。自分よりも喜多原学園歴の長い児童への支援をするという事は、想像以上の難しさが有り、支援するはずの児童達は私の上を行っていた。

児童同士の関係、そして児童との職員の関係も客観的な視点で見えていた自信を持った私は「児童との関係の

構築も早い、即戦力だ。」と率先して児童と関わった。児童と近い距離で助けられたことも多かったが、児童が私の上を行き、児童の都合の良いように行動した自分もあつた。それは一度だけではなく、そこから何度も失敗を繰り返した。

これまでに十年間知的障がい児施設で勤務していた経験から児童への生活支援に対する自負もあつた。児童が主体的に生活を行い、行動する姿を支援のやりがいとして求めてきた十年間であつたが、この喜多原学園で一年間を経験し、強く思うことは、主体は児童。主導は職員である。

言葉遊びに陥っては意味がないが、児童は、自ら動いて状況を切り開いていく。職員である私も自ら動いて状況を切り開き、更に導いていく必要がある。児童が自己決定をし、状況を切り開いていくその先で私たちは見えないうライン引きをし、導いていく。そして児童が切り開いた状況を共感し喜び合いたい。また、児童が持つ可能性について夢を聞き、実現させていく過程をやりがいと感じて喜多原学園で児童と関わっていききたい。

### く児童自立支援専門員 松田 治

平成二十九年四月、喜多原学園に着任になりました。まさか、自分が児童分野で仕事を行うことになるとは考えておらず、戸惑いました。さらに、勤務する寮も女子寮であり、不安だらけでのスタートでした。

勤務当初は、児童との関わり方や声のかけ方など、どうすれば良いのか分かりませんでした。その中で、運動、作業、余暇など多くの時間を児童と一緒に過ごした事、先輩職員から多くの助言をいただいた事で、現在では、以前よりも自分で考え、行動できるようになったと感じています。

しかし、この職場では、児童への声のかけ方、関わり方など正解がありません。その都度、自分の中でどうすれば良いのか考え、判断し、行動に移さなければいけません。一年が経過しようとしている現在でも、多くの事で悩む日々が続いています。正解が無いのが難しいですが、悩み、考え、経験することで自分自身の成長に繋がっていると思っています。

児童にとって何が良かったのかという事は、本人にしか分かりません。それでも、今の自分なりに、児童の事を常に考え、成長に繋がるように、今

後も努力して、日々児童と共に、生活を送っていききたいです。



## 米子市立福生中学校

## いずみ分校

く国語担当 青笹 博く

昨年の三月に島根県の教員を定年退職し、五月から学園のいずみ分校にお世話になりました。

中学生の国語を担当しましたが、少人数ですので、生徒一人一人の学習の様子を個別に見ることができ、とても貴重な経験をさせていただきました。また、百人一首や国語のゲームなど、生徒と一緒に楽しむ授業も貴重な時間でした。分校の生徒のみなさんに感謝したいと思います。ありがとうございます。

く家庭科担当 長谷川 真美く

私は年度途中からいずみ分校に赴任することになりました。人見知りな性格のため不安な気持ちがありました。子供達はすぐに私を受け入れてくれました。

授業補助を行っていた体育の授業では、運動が苦手な私に積極的にアドバイスや声かけをしてくれ、休憩時間や運動日課では普段の生活や悩みについて話しかけてくれました。

様々な活動を一緒に過ごす中で、子供達が成長しているのを実感する機

会はとても多く、私自身も沢山の事を学ばせてもらった七ヶ月間でした。

喜多原学園の子供達のように強く、

たくましく、私も頑張ろうと思います。そう思わせてくれた子供達に感謝の気持ちでいっぱいです。

く理科担当 角 誠く

四月にいずみ分校に着任して、理科の授業を担当させてもらいました。赴任した当初は、これまで働いてきた学校とは多少違うところもあり、戸惑うばかりでした。

しかし、自分自身がいずみ分校での生活に慣れるとともに、子どもたちとの関係ができてくると、戸惑うことよりも楽しさを感じるものが多くなりました。一度楽しくなると何でも楽しくなつていきます。準備が大変だった教科の授業、息が続かなかった運動日課、魚が一匹も釣れなかった寮行事・・・振り返ってみると、どんなことでも子どもたちと一緒に過ごしたことで、楽しかった思い出になりました。このような体験をさせてもらった子どもたちや、学園の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。子どもたちのさらなる成長と、夢の実現を期待しています。

## 米子市立福生東小学校

## 分教室

く五年生担任 松井智子く

一面の雪で真っ白な分校を訪れたのは二月中旬。退職後何回か小学校に上がりましたが、再び勤務するとは思いませんでした。しかし、本人の学ぶ力が生きる力になると信じて、一緒に学習するにしました。

聞くところによると、担任の最高齢を更新したそうです。なんとも不思議な感じですが、自分では若いつもりでも子どもには、わかるのですね。それでもお姉さん先生と言ってくれましたよ。

子ども達には、一所懸命に学習して、集中力を身につけ、困難な事にぶつかった時にどうしたらよいか考えて行動する人に。集団生活を通して、人の気持ちを考えてやさしい人になって欲しいと願っています。

先生方、職員の皆様には、大変お世話になりました。打刻にとまどい入力もお願ひして、大変迷惑をおかけしました。親切に対応してくださって感謝しています。ありがとうございました。

く六年生担任 上杉 礼子く

喜多原学園にまたお世話になることになりました。前回は寒さに震えることの多かった冬の季節でしたが、今回は二期からと期間が長かったので、いも掘りをしたり、栗やぎんなんを拾ったりと秋の実りを満喫することができました。

また、初めての体験となったなし狩りも印象に残っています。そこかしこに自然がいっぱいの環境に恵まれたとてもよいところだったので、健康で七ヶ月も勤務できたことは私にとっても幸いでした。

それから、笑顔がすてきな子どもたちでした。これからもたくさんのかかわりの中で「自分を大好きになること」で、さらに成長することを期待しています。



## 平成29年度

## 喜多原学園年間行事

4月	着任式 始業式 観桜会 遠足	10月	芋掘り交流会
5月	芋の苗植え交流会		中国女子バレーボール大会 (広島県)
	米子更正保護女性会との苗植え交流会	11月	中国少年駅伝・マラソン大会 (山口県)
6月	いずみ分校修学旅行		創立記念マラソン 園遊会
7月	中国少年野球大会 (岡山県)		米子更正保護女性会との交流会
	カヌー教室 海水浴 園遊会 終業式	12月	こたか保育園交流
8月	キャンプ		終業式 クリスマス会 餅つき
9月	始業式 こたか保育園交流 大山オリエンテーリング	1月	とんど 始業式
		2月	スキー・スノーボード体験
		3月	卒業証書伝達式 修了式 離任式



芋植え交流



修学旅行



プール掃除



大山登山



更正保護女性会との交流会



お稽古



デートDV 講座



アンガーマネジメント



とんど



スキー・スノーボード体験



女子寮行事(歩くスキー)



男子寮行事(釣り)



栗拾い



クリスマス会

## 後援会報告

平成29年度後援会総会が、平成29年6月11日に開催されました。

一、平成28年度事業報告	平成28年度歳入歳出決算	平成29年度歳入歳出予算
一、平成28年度収入支出決算報告	収支決算額 441,815 円	収支予算額 380,000 円
一、会計監査報告	支出決算額 221,637 円	支出予算額 380,000 円
一、平成29年度事業計画（案）	繰越額 220,178 円	
一、平成29年度収入支出（案）		

【後援会役員】※敬称略・順不同

会長	赤沢亮正	委員	後藤充司	後藤修二
副会長	上森英史、本田修	委員	本池弘昭	塚田和彦
監事	中川正純	委員	田中浩之	山澤重美
監事	王島茂	委員	保坂葉子	遠藤翔吾

御寄付ありがとうございました。※敬称略・順不同

- ・（株）備中屋本店 代表取締役 上森英史
- ・大高公民館
- ・馬詰俊哉（喜多原学園前園長）
- ・米子児童相談所
- ・株式会社 クロカワ 取締役 黒川藤太郎

### 児童在籍状況

	小学生		中学生		中卒生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
H29 4月1日	0人	0人	2人	1人	1人	0人
H30 1月1日	1人	0人	5人	4人	0人	2人
H30 4月1日	1人	0人	4人	2人	0人	0人

## 職員の異動

### 学園職員

(平成29年10月1日付)

転任 児童自立支援専門員 大石 紗希 (福祉相談センター)

(平成30年3月31日付)

退職 参事 山澤 重美

児童自立支援専門員 (再任用) 山田 政則

転任 係長 王島 徳子 (皆成学園)

児童生活支援員 足立 絢加 (総合療育センター)

現業技術員 木村 仁 (中部総合事務所)

(平成30年4月1日付)

係長 赤井 智絵美 (喜多原学園)

着任 児童自立支援専門員 太田 裕美 (倉吉児童相談所)

児童自立支援専門員 加川 綾子 (米子児童相談所)

児童生活支援員 尾室 佳奈 (総合療育センター)

現業技術員 松尾 あけみ (西部総合事務所福祉保健局)

### 分校職員

(平成30年3月31日付)

転任 講師 青笹 博 (米子市立後藤ヶ丘中学校)

講師 長谷川 真美 (湯梨浜町立北溟中学校)

(平成30年4月1日付)

着任 講師 金田 興一 (境港市立第三中学校)

講師 小別所 光 (鳥取県立米子養護学校)

### 分教室職員

(平成30年3月31日付)

退職 講師 松井 智子

編集発行

鳥取県立喜多原学園

鳥取県米子市泉706

TEL 0859-27-1101

FAX 0859-27-1611

## 編集後記

今年度、喜多原だより No. 70号を作成させていただきました。

編集にあたり、児童や職員の笑顔の写真が多く、今年度もより一層、児童が輝ける喜多原学園にしていきたいと感じました。

日頃お世話になっている地域の皆様、学校の先生方、関係者の皆様に、学園職員一同、深く感謝申し上げます。今後とも御支援、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。